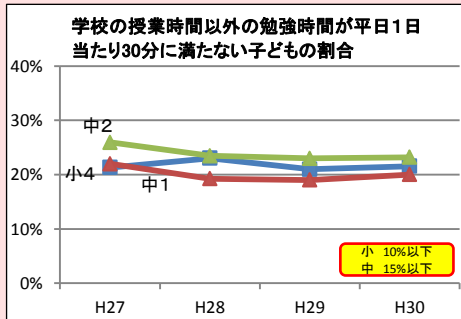
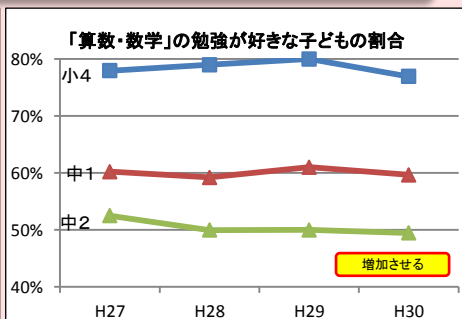
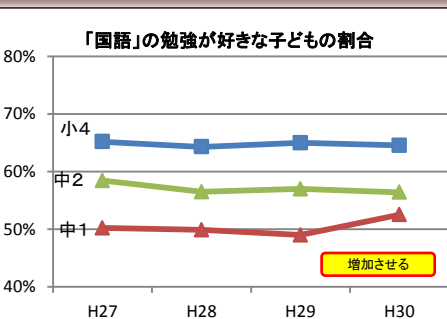
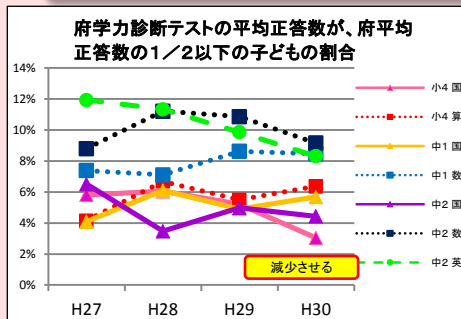
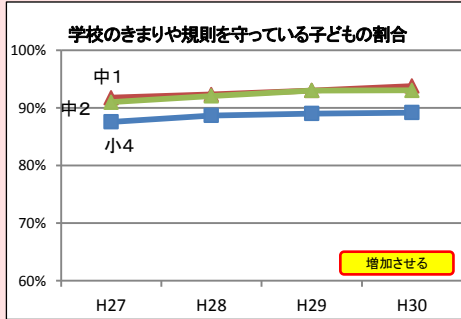
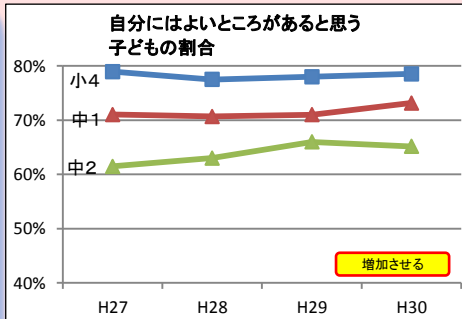


管内の児童・生徒の様子

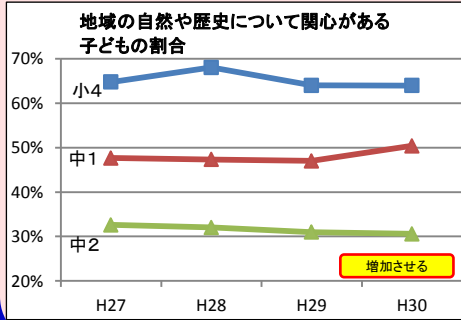
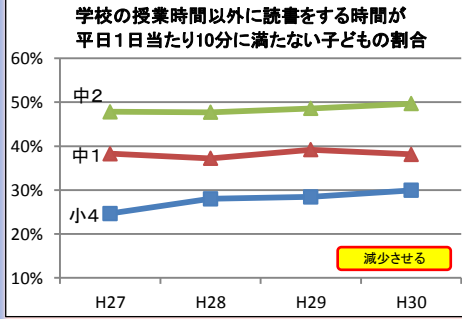
京都府学力診断テストでみる「京都府教育振興プラン」の目標指標の管内状況



質の高い学力をはぐくむ
 「府の平均正答数の1/2以下の子どもの割合」は、4年間で見ると全体的に減少傾向にあり、基礎学力定着の取組や質の高い学力の育成を目指した授業改善の成果が表れつつあります。
 「教科の勉強が好き」と回答する割合は、増加している学年もありますが、低い状況が続いています。
 家庭での学習習慣の定着については、課題が大きく「家庭学習を充実させる取組」の強化が必要です。



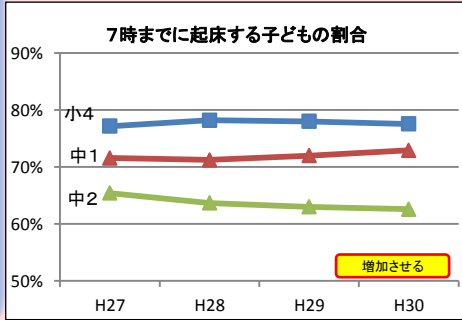
豊かな人間性をはぐくむ
 「自分にはよいところがあると思う」と回答する割合は、微増減はあるものの全体的には横ばい傾向です。
 読書への興味・関心は高まっているものの読書習慣、読書量については課題があります。引き続き、読書活動を充実させる取組を推進する必要があります。



社会の構築に貢献できる力をはぐくむ
 「きまりや規則を守る」と回答する割合は高いのですが、地域への関心を高めることが課題です。学校・家庭・地域でのつながりが子どもたちの自己肯定感をはぐくみ、社会への参加を促していくと考えられます。

たくましく健やかな身体をはぐくむ
 「50m走、握力、ボール投げ」の記録は全体的に向上傾向と言えますが、「小3男子、女子のボール投げ」等、下降傾向の種目も見られます。また、「7時までに起床する子どもの割合」は、ほぼ横ばいです。学校・家庭・地域など様々な場で、楽しみながら体を動かす機会を増やす体力向上の取組や健康的な生活習慣の確立に向けた取組をより充実することが求められています。

山城地方の子どもたちが、包み込まれているという感覚を実感でき、「やましろ未来っ子」が輝くための取組を今後も社会総がかりで進めていくことが大切です。



京都府新体カテスト調査でみる「京都府教育振興プラン」の目標指標の管内状況

※ 新体カテストの全国平均値(50)を基準にして、管内平均値から求めた偏差値

